

(1) ロボットをつくる

右の写真1は、手の自由がきかず、自力で食事ができない人のために開発された食事支援ロボットです。

あごなど身体の一部を使ってロボットを操作することで、食物を口元まで運んでくれます。これにより、自分のペースで食事をするということが可能になるというロボットです。

このロボットを開発したのは、写真2の左側に写っている人です。この人は、大学に通っているころ、福祉に関するボランティアに携たずさわっていました。そして、卒業後は、ある会社の研究所に入って働いていました。

そんなある日、身体に障害がある人の「自分で食事ができたらいいのに」という声を聞き、自分の仕事を生かして、この願いをかなえることができるのではないかと考えました。製品開発の段階で試行錯誤し、11年という歳月をかけてこのロボットを完成させました。障害があっても、自分のペースで食事が楽しめる人が増え、とても喜ばれているそうです。



写真1：食事支援ロボット



写真2：食事支援ロボットを体験する小学生



(2) 「働く」のは何のため

「働く」のは何のためなのでしょう。

単にお金を稼ぐためのものだと思っているかもしれませんが、決してそれだけではないのです。先の開発者のように、働くことを通して、自分の思い、夢を実現することもできるし、自分の「生きがい」を見つけていくこともできるのです。

「働く」のはだれのためなのでしょう。もちろん自分のためでもあります。社会のため、つまり、社会への貢献でもあるのです。世の中には様々な仕事があります。職業に就いて働くことだけではなく、町内会の当番活動やボランティア活動のようなものも仕事の一つです。こうした仕事を通して、社会の中のだれかが恩恵を受けたり、助かったりしているのです。

生きがいを持って働き、そのことが社会への貢献につながるような「生き方」をしたいものです。